



FAI SPORTING CODE

Fédération Aéronautique Internationale
(国際航空連盟)

2019年版
FAI スポーティングコード

Section 4 - Aeromodelling Volume F3
Radio Control Soaring Model Aircraft
(F3F 抜粹)

日本模型航空連盟・規定委員会監修
訳：グライダー委員会

5.8.1. 定義:

この競技はラジオコントロール スロープグライダーのスピードを競う競技。

5.8.2. ラジオコントロール スロープグライダーの定義

セクション4B(模型飛行機の製作者)パラグラフB.3.1 の a)はF3Fに適用しない。

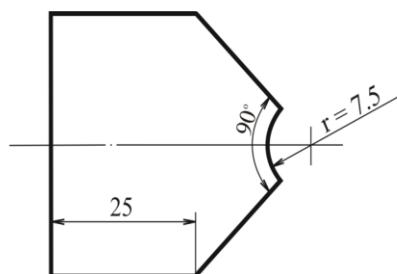
最大翼面積 150dm²

最大重量 5Kg

翼面荷重 75g/dm²以下

いかなるタイプの自動操縦機構による、舵面のコントロール及び機体諸元の変更を禁止する。

胴体先端の半径は、7.5mm以上 (下図ゲージ参照)



TEMPLATE FOR NOSE RADIUS AND MARKING

ラジオは、割当られたR/Cバンドで周波数間隔を守り、他の器材と同時に使えなければならない
(すなわち 35MHz:10kHz)。

競技者は、コンテストで3機の使用が可能。競技者は、規定の範囲内でこの3機の部品を組み合わせて使用することが可能。バラストの(内部への)追加と、取付角の変更は許される。また、外部からのコントロールによる形状及び面積の変更も許される。

競技飛行中は、飛行機から直接空気の状態の提供や、直接制御をフィードバックする技術の使用を禁止する。**それらの技術には、送受信を伴わず直接飛行を制御しない物全てを含む。**テレメトリー装置を用い、受信機の受信状況とバッテリーの状態監視は許される。 視力補正の眼鏡とサングラスは、許される。

この規則の違反の場合、競技者は競技から失格とします。

5.8.3. 競技者と助手

競技者は自分で操縦しなければ行けない。競技者は一人の助手をつけることが可能。助手は、**最初のAベースを、Bベースに向かって通過の時迄と競技終了後にのみ補助と助言のみ可能。**

5.8.4. 公式飛行の定義

競技者または助手の手から離れた時から、一回の開始とする。

5.8.5. 飛行の回数

競技者は一回の飛行時一回しか公式飛行が出来ない。

以下の条件の場合、再飛行が認められる。

- a) 競技者のコントロール以外の理由で、発航が妨げられたと審判が認めた時。
- b) 競技者の飛行機が他の飛行機と衝突した場合で、競技者に責任がない時。
- c) 飛行が正しく計測されなかった時。
- d) ランチエリアに設定された水平面より上に、発航後5秒以内に競技者の意思に反してコースイン出来無かつたと、ジャッジが判定した時。(無風他の外的要因)

再飛行が発生した場合現地と周波数の考慮の上、できるだけ速やかに実施する。

もしもその機体が空中にあり飛行可能な場合、機体をランチ高度とランチスピードに戻して新たな競技開始前30秒から開始される。

5. 8. 6 飛行の取り消し

公式飛行が終了し如何なる結果で有っても、以下の場合は公式記録は 0 とする。

- a) 競技者がFAIルールに違反した機体を用いた時
- b) 飛行中に部品脱落の時
- c) 助手が計測飛行中にアドバイスの時
- d) 競技者以外が操縦した時
- e) 飛行が完了しなかった時
- f) 機体が決められた着陸エリア外に着陸の時
- g) 開始合図から30秒以内に発航されなかった時
- h) ランチエリアに設定された水平面より上のコース上を 5秒以内に通過しない時
- i) A面ジャッジが、機体のコースインを判断出来なかった時

5. 8. 7 競技運営

競技はラウンド毎に実施。競技順は、使用する周波数が重ならないように抽選で決める。

競技者は、レディボックスに呼び出されてから3分間の準備時間が与えられる。

3分経過後、スタートの合図が行われる、競技者及び助手は、スタート合図後30秒以内に指定された発航エリアから、発航しなければならない。

音声機器と発航エリア、可能な限りA,B面の中央に設置の事。

発航後スピードコースには、30秒以内に進入しなければいけない。もし機体が 30 秒以内にスピードコース(B面に向かって最初にA面を通過)に入らなかったならば、30秒経過後直ちに飛行時間が開始される。~~30秒以内にコース進入しなかった事をジャッジから知らせる。~~

もし30秒以内にコースインしなくとも、競技委員長は何の合図もしない、

5. 8. 8 競技飛行

競技は100mのコースを10回飛行し、最初に B 面に向かい A 面を通過後から時間の短さを競う。

もし障害物その他によって100mの距離が取れない場合短縮できるが、最低80m以上でないといけない、この短縮は、世界選手権又は大陸選手権には適用されない。

競技者の機体は、A,B 面ジャッジに見えなければいけない。

5. 8. 9 スピードコース

スピードコースは斜面の端に沿って配置されて、2 つの明らかに見える旗で、両端でマークされます。両端で飛行機旋回が相互に平行で斜面と直角をなすことを、主催者は確実としなければなりません。状況に従い、両面はそれぞれ A 面と B 面と記されます、そして A 面は公式開始面です。

A 面が競技開始面となり、A 面と B 面で、機体の一部でもスピードコースを超えたとき、公式計時員は、音にて知らせる。さらにまた、初めての B 面に向けた機体が A 面を通過した時信号が発せられる。

5. 8. 10 セイフティー

A,B面の観測ゲージは、安全な場所に設置されなければいけない。

主催者は、競技中(手が離れてから、飛行の計測が終了する迄)のスピードコースとセイフティーエリア(ジャッジ、他の競技者、見学者他のいる)をハッキリと垂直面で示さなければいけない。

機体の一部でもこのセイフティ一面を超えた場合、100点のペナルティーが課され、このラウンド得点からだけで無く、合計得点から減点される。主催者は、セイフティ一面通過を監視の為、観測用機器とジャッジを配置しなければいけない。

追加として、主催者はセイフティーエリアと着陸エリアの境界を明確に指定しなければいけない。

競技者又は助手の手を離れた後、セイフティーエリア内のいかなる物（地面、車、棒、植物など）に接触の場合 100 点のペナルティーを課す。セイフティーエリア内の人との接触は 1000 点のペナルティーを課す。何回発生したかは関係なく内最大のペナルティーが適用

される。
ペナルティーの100又は1000点が最終成績から差し引かれる、ペナルティーはスコアシートに追記される。

5.8.11 計測員

飛行は2人の計測員で計測される、2人は全ての競技者に同じでなくて良い。
ジャッジは、ルールに従って実施され、時間計測員に正しい距離を飛行した事をしらせる。

5.8.12 得点

飛行の結果は、秒及び100分の1秒で記録される。
ラウンドグループ(5.8.16参照)結果の以下計算に使用される。
競技者の得点 = $1000 \times P_w / P$ P_w : ラウンドグループのベスト結果
P : 競技者の結果

5.8.13 順位付け

最低4ラウンド実施しなければいけない、この場合最低のラウンド結果が切り捨てされる。
もし14ラウンド以上実施の場合、最低2ラウンドの結果が切り捨てられる。
同点の場合、5ラウンド決勝ラウンド、それでもの場合差が付くまで6ラウンド以降を実施して決定、
もしこれが出来ない場合、切り捨てラウンドの点数で最終順位を決定しても良い。

5.8.14 競技の運営

競技会はスロープソアリングクラブに適した会場で開催されないといけない。
主催者は、発航場所、着陸場所と飛行機の旋回位置の設置に、地形と風向きを考慮しなければいけない。

5.8.15 変更

飛行、着陸エリア他の変更は、別のラウンド又はグループで行わなければいけない。

5.8.16 気象条件と中断

以下の条件で下では中断しないといけない

- A) 飛行場所の地上2mの位置で20秒間の平均風速3m/秒以下又は25m/秒以上。
- b) 風向きがスピードコースに対して、常時45度以上。
- c) 降雨の時。

上記条件下では、競技委員長は競技を中断し、選手はリフライト権利を得る。
グループは、最低10名以上で全選手を同人数(+1)に分割しないといけない。
競技期間中、気象条件が良ければ1ラウンド1グループが良い、中断が30分以上の場合、グループ先頭から再開され、グループ毎に結果が計算される(5.8.12 参照)

5.8.16 サイト

要望されるのは、サイトレイアウトを図す。

F3F Flying Field Layout

